令和６年度　基本評価調書		所管部局	環境生活部	所管課	スポーツ振興課	
施策名	次世代アスリートの発掘・育成			施策コード	0314	
政策の柱	歴史・文化・スポーツ			政策体系コード	3(6)C	
関連重点戦略計画等	北海道創生総合戦略、知事の基本政策					事務事業数 9
特定分野別計画	第3期北海道スポーツ推進計画					
SDGs				総合判定	遅れている	
予算額（千円）	R6	354,240千円	R5	424,717千円	R4	262,111千円

施策目標	・オリ・パラ競技について、将来有望なアスリートのジュニア期からの発掘・育成を行う。 ・将来有望でありながら、経済的な理由により競技活動を継続することが困難なジュニア選手への支援を行う。 ・国際的または全国的な規模のウィンタースポーツ競技大会で、どさんこ選手が活躍できるように、競技力の一層の向上を図る。 ・障がい者スポーツの競技力向上のための支援を行う。
現状と課題	（世界で活躍するトップアスリートの育成） ・競技人口のすそ野の拡大を図るとともに、本道の競技力をさらに向上させ、その水準を維持していくことが重要。 ・子どもがスポーツに継続して親しむことができる機会の確保とともに、子どもの競技スポーツへの参加拡大と競技力向上に向けた方策を併せて行うことが重要。 ・障がい者スポーツを行う団体は、活動の基盤が弱く、団体間の連携が課題。

〈主な取組〉

今年度の取組	（世界で活躍するトップアスリートの育成） ・有望選手（小中学生）の発掘育成 ・北海道スポーツ協会が行う選手強化等に対する支援 ・障がい者スポーツのすそ野拡大と選手発掘 ・北海道障がい者スポーツ協会が行う障がい者スポーツ活動の活性化への支援
実績と成果	（世界で活躍するトップアスリートの育成） ・有望選手（小中学生）の発掘育成 　⇒競技経験の有無に関わらず有能な選手を発掘するため、新規タレント生の選考会を開催、タレント生認定後は、組織的かつ計画的に育成するプログラムを実施 ・北海道スポーツ協会が行う選手強化等に対する支援 　⇒将来的に国際大会でメダル獲得を狙える有望なジュニア選手に対し、育成強化合宿を実施 ・障がい者スポーツのすそ野拡大と選手発掘 　⇒パラスポーツの体験会・測定会を開催し、体験会362名、測定会13名が参加 ・北海道障がい者スポーツ協会が行う障がい者スポーツ活動の活性化への支援 　⇒障がい者スポーツ活動を行う団体への助成制度について支援を実施
参考HP①	スポーツ局スポーツ振興課のHP　https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ssk/
参考HP②	
参考HP③	

令和6年度 基本評価調書	【3(6)C_0314】次世代アスリートの発掘・育成

〈**指標分析**〉 ⇒成果指標は、原則、取組項目ごとに1つ以上、全体で5つ以下とする

指標名①	増加	人	H30年	R3年	R4年	最終目標(R9)	達成率	指標判定
本道出身のオリンピック・パラリンピック出場者数【暦年】		目標値	93	22	93	過去最高水準	64.5%	D
		実績値	72	29	60			

設定理由	「次世代アスリートの発掘・育成」に係る取組の成果を測る指標として設定 目標値　夏季22人(オリ14人(2004年)、パラ8人(2016年))、冬季93人(オリ77人(1998年)、パラ16人(1998年))　なお、最終目標値は第3期北海道スポーツ推進計画における設定値を記載しているが、同計画の見直しに合わせて更新予定

指標公表時期	各大会出場時	出典(根拠計画等)	JOC等の出場選手リスト

分析(主な取組と成果)

スポーツ競技力の水準向上のため、小中学生等のジュニア選手を対象にした合宿や選手強化等に対する費用の支援を実施。
指標の性質上、成果が反映されるまでに数年を要するが、今後も継続して同様の取組を続けることが重要。

指標名②	増加	個	H30年	R3年	R4年	最終目標(R9)	達成率	指標判定
本道出身のメダル総獲得数【暦年】		目標値	15	7	15	過去最高水準	53.3%	D
		実績値	6	7	8			

設定理由	「次世代アスリートの発掘・育成」に係る取組の成果を測る指標として設定 目標値　夏季7個(オリ4個(2008年)、パラ3個(2008年))、冬季15個(オリ8個(1998年)、パラ7個(1998年)) なお、最終目標値は第3期北海道スポーツ推進計画における設定値を記載しているが、同計画の見直しに合わせて更新予定

指標公表時期	各大会終了時	出典(根拠計画等)	JOC等の競技結果

分析(主な取組と成果)

スポーツ競技力の水準向上のため、小中学生等のジュニア選手を対象にした合宿や選手強化等に対する費用の支援を実施。
指標の性質上、成果が反映されるまでに数年を要するが、今後も継続して同様の取組を続けることが重要。

指標名③			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					－	－
		実績値						

設定理由	

指標公表時期		出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

指標名④			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					－	－
		実績値						

設定理由	

指標公表時期		出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

指標名⑤			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					－	－
		実績値						

設定理由	

指標公表時期		出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

令和6年度 基本評価調書	【3(6)C_0314】次世代アスリートの発掘・育成

〈取組分析（連携状況、緊急性・優先性）〉

連携状況	(課題) スポーツ競技力の水準向上や小中学生等のジュニア選手育成のため、選手が在籍する学校やスポーツ団体、競技団体との連携が必要。 (取組と成果) 北海道スポーツ協会や学校と連携を図りながら育成を図っており、引き続き取り組む。
緊急性 優先性	(課題) (取組と成果)

〈その他統計数値等〉

その他統計数値等①	過年度①	過年度②	最新年度
北海道タレントアスリート発掘・育成事業 NF強化指定選手輩出数	15人(R3年度)	15人(R4年度)	13人(R5年度)

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)
発掘した選手は、PF(都道府県競技団体)強化指定選手から、NF(中央競技団体)強化指定選手と順調にパスウェイしているが、国際競技力が向上している中で、国内においては少子化、冬季スポーツ離れが加速していることから、今後の競技者の確保や、より質の高いプログラムの提供が課題となる。

(状況) 北海道の選手が国際大会で活躍できるよう、地方、中央競技団体や関係団体等と連携して、ジュニア期からの選手の発掘・育成を行い、本道の競技力向上に向けた取り組みを実施している。地域タレントからナショナルタレントへの育成パスウェイを構築することができており、中央競技団体の成果にも繋がっている。	b

その他統計数値等②	過年度①	過年度②	最新年度
北海道パラアスリート発掘プロジェクト 発掘イベント参加者数	64人(R3年度)	654人(R4年度)	845人(R5年度)

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)
パラスポーツの多くはPF(都道府県競技団体)がないため、地域での育成環境が整えることが難しい。またコロナ禍で活動が制限されていた期間が長く、年代に応じて必要な経験や運動が不足しており参加者の運動能力などが停滞している。

(状況) ・市町村を通じて各学校にイベントの周知を行った。 ・北海道障がい者スポーツ大会開催地周辺の市町村を通じて、イベントの周知を行った。 ・北海道教育庁特別支援課とは、R4年度から連携をし、共催でパラ発掘プロジェクトの実施をしている。実行委員会にもオブザーバーとして参加いただいている。	a

その他統計数値等③	過年度①	過年度②	最新年度

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)

(状況)	

令和6年度 基本評価調書	【3(6)C_0314】次世代アスリートの発掘・育成

〈総合判定〉

指標判定	D※	連携状況	○	総合判定	遅れている
		緊急性・優先性	−		
		その他統計数値等	a		

※ 成果指標の指標判定が「D」の指標
（本道出身のオリンピック・パラリンピック出場者数【暦年】,本道出身のメダル総獲得数【暦年】）

	対応方針番号	内容
翌年度に向けた対応方針	①	世界で活躍するトップアスリートを目指すことができる、有望選手(小中学生)の発掘を行い、これまでの育成プログラムを継続していくとともに、新たな育成プログラムの開発を検討
	②	
	③	

〈二次政策評価〉

二次政策評価	【施策目標の達成状況】 総合計画に掲げる、本道のスポーツ競技人口の裾野の拡大とともに、競技力を更に向上させ、その水準を維持していくため、どさんこ選手の強化と指導者の充実、次世代アスリートの発掘・育成を推進することが重要であり、総合計画の政策目標の実現に向け、取組の一層の推進を検討すること。

〈ＡＣＴＩＯＮ〉

二次政策評価への対応		有望選手(小中学生)の発掘・育成、選手強化等に対する支援を実施し、また関係団体と連携した医科学サポートの充実などを行い、本道の競技力向上に努める。
翌年度施策の方向性	対応方針番号	方向性
	①	本道の競技力向上を図るのため、選手強化等に対する支援はもとより有望選手(小中学生)の発掘・育成を継続して実施し、また障がい者スポーツの競技力向上のための支援も併せて行う。
	②	
	③	

令和６年度　事務事業評価調書	施策名	次世代アスリートの発掘・育成	施策コード	0314

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局室名	前年度からの繰越事業費（千円）	事業費（千円）	うち一般財源	執行体制 本庁	出先機関	人工計	フルコスト（千円）	一次政策評価 対応方針番号	方向性	二次政策評価意見	ACTION 結果への対応（令和6年度） 次年度方向性	二次評価意見への対応状況
0912		一般	北海道マラソン・ソウル国際マラソン交流事業費	北海道マラソン大会の実施及び規模拡大や国際化に向けたシンポジウムの開催やソウル国際マラソンとの相互交流事業の実施、次年度以降の規模拡大に向けた関係機関との協議、調整等	スポーツ振興課	0	250	250	0.8	0.0	0.8	6,658					
0913		一般	国民体育大会派遣費補助金	(公財)北海道スポーツ協会が行う国民体育大会への北海道選手団派遣事業に対する補助事業	スポーツ振興課	0	156,474	156,474	0.2	0.0	0.2	158,076					
0914		一般	スポーツ競技力向上推進事業費補助金	(公財)北海道スポーツ協会が実施する選手強化事業等に対する補助事業	スポーツ振興課	0	71,895	71,895	0.2	0.0	0.2	73,497					
0915	0313	一般	スポーツ団体活動費補助金	本道スポーツの振興と指導者の養成を図るため、(公財)北海道体育協会が行う事業に対する補助事業	スポーツ振興課	0	4,134	4,134	0.3	0.0	0.3	6,537					
0916		一般	障がい者スポーツ振興費	障がい者の体力維持や残存能力の向上を図るため、(公財)北海道障がい者スポーツ協会が行うスポーツ大会等の事業に対して補助する。	スポーツ振興課	0	33,392	16,990	0.6	0.0	0.6	38,198			【事務事業のコスト】 関与団体に対する補助金等は、引き続き、道の施策推進上の必要性を検証し、意義が薄れた補助金、負担金及び交付金の縮減について検討を行っていくこと。		北海道障がい者スポーツ協会は、道からの補助により専門的な知見のもと、障がい者スポーツに係る様々な施策を実施している。昨年開催されたパラリンピックでの道内出身選手の活躍等、障がい者スポーツ振興への気運が高まっている中、障がい者の社会参加の気運を狭めるような対応は困難なものの、引き続き施策内容の精査に努める。
0917		一般	全国障害者スポーツ大会派遣事業費	全国障害者スポーツ大会に選手団を派遣する経費を(公財)北海道障がい者スポーツ協会へ補助する。	スポーツ振興課	0	35,712	35,712	0.2	0.0	0.2	37,314			【事務事業のコスト】 関与団体に対する補助金等は、引き続き、道の施策推進上の必要性を検証し、意義が薄れた補助金、負担金及び交付金の縮減について検討を行っていくこと。		北海道障がい者スポーツ協会は、道からの補助により専門的な知見のもと、障がい者スポーツに係る様々な施策を実施している。昨年開催されたパラリンピックでの道内出身選手の活躍等、障がい者スポーツ振興への気運が高まっている中、障がい者の社会参加の気運を狭めるような対応は困難なものの、引き続き施策内容の精査に努める。
0924		一般	北海道パラスポーツ連携促進事業	健常者スポーツと障がい者スポーツの連携を促進、障がい者スポーツの裾野拡大と競技力向上に取組むとともに、地域への定着を図る。	スポーツ振興課	0	9,103	1,043	0.7	0.0	0.7	14,710					
0910	0313	一般	ジュニアスポーツアスリート強化育成事業費	本道の競技力強化を図るため、ジュニア世代に特化した強化合宿の実施に係る経費を(公財)北海道スポーツ協会に対して補助する。	スポーツ振興課	0	24,626	24,626	0.3	0.0	0.3	27,029					
0925	0313	一般	スポーツをする・みる・ささえる促進事業費	北海道スポーツ推進条例に基づく各種施策を実施する。	スポーツ振興課	0	18,654	18,654	2.8	0.0	2.8	41,082	①	改善（指標分析）	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書 <二次政策評価>参照 【事務事業のコスト】 関与団体に対する補助金等は、引き続き、道の施策推進上の必要性を検証し、意義が薄れた補助金、負担金及び交付金の縮減について検討を行っていくこと。	改善	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 有望選手（小中学生）の発掘・育成、選手強化等に対する支援を実施し、また関係団体と連携した医科学サポートの充実などを行い、本道の競技力向上に努める。 【事務事業のコスト】 北海道障がい者スポーツ協会は、道からの補助により専門的な知見のもと、障がい者スポーツに係る様々な施策を実施している。昨年開催されたパラリンピックでの道内出身選手の活躍等、障がい者スポーツ振興への気運が高まっている中、障がい者の社会参加の気運を狭めるような対応は困難なものの、引き続き施策内容の精査に努める。
計						0	354,240	329,778	6.1	0.0	6.1						